



リベラル群馬、次年度に向けた政策提言を行う。

CONTENTS

- I 政策転換を巡り熱論50分 会派代表質問
- II 看板施策は成果指標を明確に
- III 「要望」から「提言」へ リベラル群馬政策提言

街頭演説
3400日

群馬県議会リベラル群馬

後藤かつみ

2020年 第1回定例会報告

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町 800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com

<http://www.ccrqgo.com/>
<http://www.eaglesgoto.com/>
(スマートフォン用)

会派代表質問に登壇。
山本知事初の予算編成に対し、
是々非々の姿勢で臨む。

政策転換を巡り熱論50分 会派代表質問

歳出において大きなウエイトを占める公共事業費。後藤は従来から、公共事業の「総額」以上に重要なのが「優先順位」であると提言してきました。

公共事業の優先順位に切り込む

財政健全化 昨年度予算との比較	
普通県債の発行額	709億円 ⇒ 545億円
プライマリーバランス	102億円赤字 ⇒ 40億円黒字
財政調整基金残高(年度当初)	15億円 ⇒ 52億円
道路などの公共事業費	874億円 ⇒ 806億円

第1回定例会は、新年度予算を審議する最も重要な議会のため、会期2日目に会派代表質問が行われます。
後藤は、リベラル群馬を代表して登壇し、政策転換を強力に進める山本知事と建設的に議論を戦わせました。

山本県政の最大の試金石であり、知事の掲げる「持続可能な行政運営」のために避けて通れないのが財政健全化です。
次年度予算編成における知事の手腕が注目されましたが、財政の主要指標は軒並み改善し、まずは及第点と言える結果を出せたと言えます。

しかも、公共事業や業界団体が要望する補助事業など「削りにくい」事業について例外なく効果を検証し、果敢にメスを入れたことは大いに評価できます。

後藤は、知事の手腕を率直に評価しつつも、悪化の著しかった前年度予算と比べて好転したに過ぎないことから、一層の健全化が可能であると指摘。知事も「まだ事業を見直せる余地はある」と応じ、更なる健全化に意欲を示しました。

財政健全化へ大きな一歩

代表質問で後藤は、税収が伸びず、公共事業が経済成長を生まない時代を迎えたいま、大型幹線道路を新設するよりも、防災対策や交差点改良、危険な歩道の改良など、既存のインフラを「守り、磨く」事業に優先順位を変えるべきであると提言。

山本知事は、「防災対策を最優先に行いつつ、財政健全化とのバランスを考慮して公共事業全体を見直していく」と答弁。その後示された公共事業の基本計画である「県土整備プラン」の原案では、前知事の看板施策だった大型幹線道路整備はなりを潜め、防災対策や維持管理の優先度を高めるなど、本格的なメスを入れる意欲を示す内容となっています。

公共交通活性化策の停滞を懸念

一方、むしろ施策を拡充すべき公共事業は「公共交通」であると後藤はかねから主張してきました。R2年度予算では、乗換案内に加え、バスが今どこを走っているかの位置情報もスマートフォン上で見られるシステムづくりも予算化され、最も身近であるべきバス路線の利便性の一層向上が期待されます。

しかし、一方で高崎と館林間を結ぶBR-T(バス高速輸送システム)事業の凍結や、鉄道駅等のパークアンドライド駐車場整備などのハード事業予算が軒並み減額されるなど、ようやく途に就いた活性化策が停滞する懸念は否めません。



全国の公共交通とまちづくり政策を研究し、提言を続けています。